

中学校【社会科】 「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 社会科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

主体的な学び

- ・児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つために、単元等を通した学習過程の中で動機付けや方向付けを重視すること。
- ・学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにすること。

対話的な学び

- ・実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動の一層の充実を図るために、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ること。

深い学び

- ・教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計すること。

【社会的事象の地理的な見方・考え方（地理的分野）】

社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。

【社会的事象の歴史的な見方・考え方（歴史的分野）】

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などと関連付けたりすること。

【現代社会の見方・考え方（公民的分野）】

社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	・提示された社会的事象（資料）から気付いたことや分かったことを話す。 ・教師と生徒が学習する内容を共有する。	生徒が社会的な見方・考え方を働かせて、社会的事象の事実に関心をもち、矛盾点や追究したい視点を明らかにする。 主体的な学び ・生徒が社会的事象と出会い、驚きや疑問を感じるように工夫する。 ・学習課題の設定につながる具体的な事実から疑問が生まれる社会的事象（資料）を考える。 ・必然のある学習課題になっているかどうかを見直す。 対話的な学び ・指導計画の内容を吟味しながら、教師の意図と生徒の認識のズレをなくすために、一人一人の生徒が学習課題にかかわる事実や調べる内容を確実にもち、生徒が互いに共有できる働きかけを行う。
深める	・解決の見通しをもつ。 ・学習課題をするための資料をもとに追究する。 ・仲間の考えと比較・分類したり、総合したり関連付けたりしながら自分の考えを広げ深める。	生徒が学習課題を解決するために、解決の見通しをもって、調べたり、交流したりして自分の考えを広げ深める。 主体的な学び ・資料をもとに学習課題を追究するための視点を生徒と共有し、学習課題を解決するための見通しをもたせる。 ・写真やグラフ、地図、年表、図表、数字等事実を関連付けて考えられるよう資料を工夫する。 対話的な学び ・生徒の思考が全体交流、小集団交流等において、どのように推移していくのかを見極め、必然のある交流を考える。 ・授業者が生徒の発言内容の根拠や立場を明確にしたり、差異やつながりを的確に聞き分けたり、生徒の思考を焦点化させたりする発問を行う。 ・生徒の考えを広げ深めるために、話し合いの内容を問い返したり、ねらいに基づく問い返しを行ったりする。 深い学び ・社会的事象の特色や意味などを多角的に考えることができるように問い返しを行い概念形成を図る。
まとめる	・学習した内容について振り返る。 ・自己の変容を確かめる。	生徒が学習した内容を振り返り、自分の考えの変容を自覚する。 深い学び ・学習した内容（概念形成を図ったこと、自分との関わりや変容、仲間との関わり、さらに考えてみたいことなど）を振り返って、考えたりまとめたりすることができるように板書にキーワードを位置付ける。

